

施設の比較検討

	通学方法が変更する児童数(令和8年度児童数)	教室数(特別教室除く)	統合先として使用するための改修等	改修費用の大小	問題点
榛原小学校	266人	19教室	既存校舎を利用し内部改修のみのため工事は単年度で終わることが可能	既存校舎内の改修で対応できるため費用が抑えられる	普通教室数が不足するため特別教室等の改修が必要になる。
榛原東小学校	326人	25教室	大規模改修工事が必要になるため、事業の長期化が見込まれる	大規模改修工事が必要であり事業費が膨大になる	新築から改修事業をおこなっていないため、近々に大規模改修事業(概算事業費 おおよそ10億円)が必要になる。
榛原西小学校	444人	9教室	既設校舎の内部改修にあわせて増築が必要であるため事業の長期化が見込まれる	大規模改修工事が必要であり事業費が膨大になる	教室数自体が不足のため、施設の建替又は増設が必要になるため、多額の費用が必要になる。

■施設選定の考察

建築年としてはいずれの建物も大きな差はないが、施設の改修でここ数年間に必要となる費用等を検討した場合、榛原小学校を改修して使用することが最適。